

2014年秋期 ピースボート地球大学 特別プログラム 「多民族アジアにおける社会の結束」

2014年10月2日～10月15日 [14日間]
スリランカ～シンガポール～カンボジア

PEACE BOAT

ピースボート地球大学とは

ピースボート地球大学は「地球一周の船旅」を活用した国際交流・平和教育のためのプログラムです。訪れる各地域での現場体験と洋上ゼミを合わせ、地球規模の問題を自分の問題として考える視点を養い、理解を深めていきます。平和な社会を築く当事者として、これから NGO・NPO や国際機関、地域活動など、さまざまな領域で活躍したい若者が、必要な知識や経験、行動力を身につけ、世界にはばたくことを目的としています。

※「ピースボート地球大学」は、NGO ピースボートがコーディネートする教育プログラムです。学校教育法上で定められた正規の大学ではありません。



プログラム行程

参加者は2014年10月2日（木）に日本を出発、空路でスリランカ入りし、現地でエクスポートジャーを行った後に、第84回ピースボート地球一周の船旅を実施中のオーシャンドリーム号に乗船しました。シンガポールに寄港し、シアヌークビル（カンボジア）にて下船。プノンペンでエクスポートジャーを行い、2014年10月15日（水）に帰国しました。

参加者

日本人 5名（東京外国語大学）

「『コンフリクト耐性』を育てる地域研究教育システムの開発と、国際職業人教育機能の高度化」事業の一環として参加

スリランカ人 4名

うち2名が Sri Lanka Unites からの参加

フィリピン人 1名

Global Partnership for the Prevention of Armed Conflict (GPPAC)
東南アジア支部からの参加

ミャンマー（ビルマ）人 1名

Burma Partnership からの参加

アメリカ人 1名

ナビゲーター



マリオ・ゴメス氏

International Centre for Ethnic
Studies (ICES) 所長／
コロムボ大学の客員講師

人権、憲法改正、公法、男女の平等、戦後和解などの分野で幅広く執筆活動を行う。10年間にわたってスリランカの法律委員会の委員として活動した経験も持つ他、2001年にはハーバード大学に博士研究員として在籍した。対話やワークショップを通じたスリランカ紛争後の平和構築に尽力する。

「地球大学特別プログラム」の特徴 ～ グローバル人材育成に向けて

アジアに学ぶ（エクスポートジャー）

「エクスポートジャー」とは「さらけだす」という意味。文献を通して学ぶだけでなく、自らをさらけだして現地に暮らす人々とともに考え学ぶのが、このプログラムの特徴です。スリランカ、シンガポール、カンボジアの3寄港地で「生の声」を拾いながら、学びにリアリティを与え、「自分事」として捉えるきっかけを与えました。

アジアの学生と学ぶ

日本、スリランカ、ミャンマー（ビルマ）、フィリピン、アメリカ合衆国の4か国から12名の若者が集まり、学びと寝食を共にしました。それぞれが独自の視点や意見を持って同じ課題に取り組むことで、参加者は多様な切り口を知り、自分の「当たり前」を疑い、広い視野で問題点を吟味することを学びました。

英語で学ぶ

洋上ゼミもエクスポートジャー（現地実習）もすべて英語で行われました。より多くの人から学び、自分の考えをより多くの人に伝えるためのツールとして欠かせない英語。「共通語としての英語」がいかに「ネイティブ英語」と違うかを痛感しながらも、国際的に活躍するためのコミュニケーションを体当たりで実践しました。

プログラム内容

ユニット① 紛争後の社会の復興と社会の結束（洋上ゼミ 3 コマ+エクスポージャー）



スリランカの内戦と戦後の社会構築をケースとして扱いながら、紛争予防や紛争後の正義（transitional justice）、和解について学びました。コロンボでの2日間のエクスポージャーでは、Centre for Policy Alternatives, Viluthu, Citizens for Secure Sri Lankaなどを訪れ、現在の政府の政策や市民運動の方向性などについて聞き取りを行いました。スリランカ人参加者の経験を聞くことはもちろん、同じく平和のプロセスを歩んだフィリピンやインドネシアとの比較も行いました。「紛争と女性」も一つの大きなテーマとして扱いました。

ユニット② 紛争を起こさせない社会へ（洋上ゼミ 3 コマ）



複雑な民族間の軋轢と、長い軍事政権を経て、やっと民主化への兆しが見えてきたミャンマー（ビルマ）をテーマに、社会の結束を通して社会の安定を築いていくとはどういうことなのかということについて扱いました。洋上のゼミでは、開発と平和の関係や、報道の自由や少数民族の権利、また近年の宗教的不寛容の問題について話し合いました。一見ミャンマー（ビルマ）特有に見える問題も、スリランカや日本などと重なる部分もあり、参加者の間では各国の経験を比較する議論が盛り上がりました。

ユニット③ グローバル化と多民族主義（洋上ゼミ 3 コマ+エクスポージャー）



多民族主義のあり方も時代の流れとともに変化します。多民族共生の成功モデルとして評価されてきたシンガポールを取り上げ、昨今の移民の波が与える影響について考えました。洋上ゼミで言語や住宅政策、国家アイデンティティなどと社会の結束との関係性を話し合った後に、シンガポールでのエクスポージャーでは、バングラデシュからの移民を支援する Transient Workers Count Too (TWC2)を視察、移民問題や持続可能な開発などについて、各国政府とプロジェクトを実施するアジア欧州財団（ASEF）も訪れました。

ユニット④ 正義、和解、そして平和構築へ（エクスポージャー）



70年代のポルポト政権の支配と大虐殺は、その後の平和構築にも大きな影響を与えています。プノンペンでは、特に司法制度や法整備に焦点を当て、社会の再構築における人材育成や国際支援の意義を話し合いました。トゥールスレン虐殺博物館とキリングフィールドを巡った後、王立法経大学内の名古屋大学日本法教育研究センターで法律を学ぶ現地学生と意見交換をしました。開発問題に取り組む Cooperation Committee for Cambodia (CCC)とのシンポジウムでは、2015年以降の開発アジェンダについて話し合いました。

シミュレーション 仮想の国における紛争後の和解（洋上ゼミ 3 コマ）



プログラムの最後には、シミュレーションを通して和解のプロセスを疑似体験しました。参加者は、政府、少数民族、市民団体、仲裁者、ジャーナリストに分かれ、紛争後の仮想国において真実委員会が必要か、そうであればどのようなプロセスを経るべきかを話し合いました。議論は難航し、なかなか簡単に結論には至れませんでした。自分とは違う立場に自らを置いて考えることで、それまで見えなかったことが見えてきたと参加者は語っていました。このシミュレーションは紛争後の憲法起草などにも応用できるものです。

来年度の開催予定

ピースボートでは、2015年夏期（8月～9月）に次回地球大学特別プログラムの実施を予定しています。詳しくはお問い合わせください。

問い合わせ先

ピースボート事務局（担当：川崎）
Tel: 03-3363-7561 Fax: 03-3363-7562
Email: univ@peaceboat.gr.jp